

科目名	担当者名	配当	期	単位
刑法特別演習Ⅱ (H23以降入学者用)	白木豊	2必	後期	2

## ■講義内容■

2年次後期開講の刑法の演習科目である。2年次前期開講の刑法特別演習Ⅰにより刑法演習の基礎が習得されていることを前提として、刑法総論・各論の理解をさらに深めるべく、より詳細高度な考察・検討・討論をおこなう。

## ■シラバス■

### <科目のねらい>

受講者は、すでに2年次前期の刑法特別演習Ⅰにより、刑法における重要論点やそれに関するリーディングケースとなる基本判例を学習しているはずである。本演習は、それを踏まえ、できるだけ最新の判例を素材としつつ、刑法総論・各論につき、各論点の個別断片的・抽象的・表層的な理解を超えて、現実の事件において、争点として登場してくる諸問題を多角的に考察し、関連問題も検討し、妥当な解決方法は何かなどを考えながら、事案の分析・判断力を向上させ、刑法学における諸論点の意義・関係、判例や学説の各見解の意図・論拠・射程などにつき、より深く、具体的・立体的で総合的な理解を促し、法曹としての思考力を高めることを目的とする。

### <科目の内容>

#### 第1回 因果関係

判例事案を題材にして、条件関係につき、その意義、結果回避可能性の位置づけ等を考察し、さらに、相当因果関係につき、第三者の行為の介入、被害者の行為の介入、結果的加重犯における因果関係等を考察する。また、早すぎた結果惹起、遅すぎた結果惹起の問題も検討する。

#### 第2回 不作為犯

判例事案を題材にして、作為義務の発生根拠を検討する。また、不作為による共犯の問題も考察する。

#### 第3回 実質的違法性

判例事案を題材にして、実質的違法性の内容、違法性阻却原理、被害者の承諾、危険引受け、安楽死・尊厳死などにつき検討する。

#### 第4回 正当防衛(1)

判例事案を題材にして、「急迫性」「防衛意思」、さらに「積極的加害意思」「自招侵害」などにつき検討する。

#### 第5回 正当防衛(2)、緊急避難

判例事案を題材にして、「相当性・過剰性の判断基準」「質的過剰と量的過剰」「正当防衛の共謀と共犯」「誤想過剰防衛」「緊急避難の要件」「自招危難」などにつき検討する。

#### 第6回 故意論、錯誤論

判例事案を題材にして、故意に必要な認識内容、具体的事実の錯誤、抽象的事実の錯誤、違法性の錯誤などにつき検討する。

#### 第7回 過失犯

判例事案を題材にして、過失の意義・位置づけ、「予見可能性」「信頼の原則」「許された危険」などを検討し、さらに「管理・監督過失」の問題を考察する。

#### 第8回 未遂犯

判例事案を題材にして、「実行の着手」「不能犯」を検討し、刑法的な危険判断を検討する。また、「中止犯」

につき、任意性の意義・認定などを考察する。

#### 第9回 共犯(1) 共犯の処罰根拠、共犯の従属性

判例事案を題材にして、共犯の処罰根拠、共犯の因果性の意義、共犯の罪名従属性・実行従属性・要素従属性、などの諸問題を検討する。

#### 第10回 共犯(2) 共犯の諸問題、正犯と共犯

判例事案を題材にして、共犯と身分、必要的共犯、片面的共犯、承継的共犯、共犯関係からの離脱、過失の共同正犯、間接正犯、共謀共同正犯、などにつき検討する。

#### 第11回 窃盗罪・強盗罪

判例事案を題材にして、窃盗罪につき、保護法益としての本権説と占有説の意義、占有の判断、不法領得意思などの問題を考察する。また、強盗罪につき、反抗抑圧後の領得意思、2項強盗の成立要件、事後強盗の要件、事後強盗と共犯、などの問題を検討する。

#### 第12回 恐喝罪・詐欺罪

判例事案を題材にして、権利行使と恐喝、誤振込、三角詐欺、クレジットカードの不正使用など、恐喝・詐欺に関わる諸問題を検討する。

#### 第13回 偽造罪

判例事案を題材にして、主に文書偽造罪につき、その要件を検討する。偽造の意義、コピーと文書偽造、名義の冒用の意義、虚偽公文書作成罪の間接正犯などにつき考察する。

#### 第14回 賄賂罪

判例事案を題材にして、賄賂罪の諸問題を考察する。賄賂罪の保護法益・罪質、一般的職務権限論、密接関連行為論などを検討し、さらに、転職と賄賂の問題などを扱う。

#### 第15回 定期試験

##### <教科書>

町野朔・丸山雅夫・山本輝之(編)『プロセス演習 刑法』(信山社、2009年)

##### <参考書>

- (1) 西田典之・山口厚・佐伯仁志(編)『別冊ジュリスト 刑法判例百選Ⅰ 総論[第6版]』(有斐閣、2008年)
- (2) 西田典之・山口厚・佐伯仁志(編)『別冊ジュリスト 刑法判例百選Ⅱ 各論[第6版]』(有斐閣、2008年)
- (3) 西田典之・山口厚・佐伯仁志(編)『ジュリスト増刊 刑法の争点』(有斐閣、2007年)
- (4) その他、毎回の授業に際して指示する文献